

雪の音で

Vol. 154

令和7年6月15日発行



巻頭言	「富山のウェルビーイング」を支える社会資本整備	富山県土木部長 金谷英明	1
特集	令和4年8月県北豪雨災害と特定都市河川の指定	新潟県土木部 河川管理課	2
寄稿文	教科書執筆の機会に恵まれて	富山県立大学工学部 伊藤始	6
お知らせ	令和7年度（第43回）北陸支部定時総会	総務部会 総務委員会	10
	令和6年度 支部活動報告	事務局	12
	会員名簿 役員・委員会名簿	事務局	17
	編集後記	太田博昭	

[題字]

元北陸地方建設局長
廣瀬利雄 揮毫

[表紙・裏表紙写真]

タイトル あやめ園
撮影地 新潟県新発田市 五十公野公園

巻 頭 言

「富山のウェルビーイング」を支える 社会資本整備

富山県土木部長
金 谷 英 明



貴協会の皆様には、日頃より本県の土木行政の推進に一方ならぬご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

とりわけ、令和6年能登半島地震により河川や道路などの公共土木施設等に甚大な被害が発生した際には、地域の実情に精通し、県内を拠点とする地域コンサルタントの皆様にご協力いただき、迅速に緊急対策を実施していただき、大変心強く感じた所です。また、現在も本格復旧に向けご協力いただいております。重ねて御礼申し上げます。

本県では、一刻も早い復旧・復興に向けて、「令和6年能登半島地震に係る富山県復旧・復興ロードマップ」を策定し、被災市町村等と連携しながら住宅の液状化対策や公共インフラの復旧等にスピード感を持って取り組んでいます。

こうした自然災害の教訓をもとに、県民の皆様の安全・安心な暮らしを守るためには、公共土木施設の維持管理はもちろん、生命や財産を守る防災・減災対策や本県の成長・発展を支える社会資本整備を着実に進めていく必要があります。河川改修をはじめとした治水・海岸・土砂災害対策や橋梁・トンネルなど公共土木施設の老朽化対策などのハード対策を着実に進めるとともに、国・市町村などと連携し、河川や海岸監視カメラ画像の一般公開、河川の水位情報や土砂災害警戒情報の提供などのソフト対策の充実も図ることで、県土の強靱化を計画的かつ強力に進めてまいります。

また、人口減少が進む中、地域の安全・安心の守り手である建設産業の人材不足を補うためには、生産性の向上を図るとともに、担い手の確保が大切です。

そうした中、本県では、安定した公共事業予算の確保を図りながら、業務履行の平準化に努めると共に、週休2日制やウィークリースタンスの推進といった働き方改革や、情報共有システムや書類の簡素化などの業務の効率化を図ることで、女性や若者も、いきいきと活躍する環境となるように取組みを進めてまいります。さらに、建設業の情報発信ウェブサイト「富山をTSUKURU(ツクル)」や建設業の魅力を発信する体験イベントを通じて、建設産業全体の仕事内容や魅力、やりがい、就職情報などを発信してまいります。

さて、本県では、県民一人ひとりが、暮らしのなかの幸せを実感し、誇りと愛着を持つことができるよう、県の成長戦略を策定し、「幸せ人口1000万〜ウェルビーイング先進地域、富山」の実現を目指しています。その中で、社会資本は、県民の皆様の安全・安心な暮らしを支え、本県の発展の礎となる「幸せの基盤」として重要な役割を担っています。これからも、先人の努力により築き上げられた社会資本の整備や維持に努め、次世代に引き継げるよう、貴協会の皆様とともに取り組んでまいります。

皆様には、今後とも、ご支援とご協力をお願いいたしますとともに、貴協会の限らないご発展と会員の皆様方のますますのご活躍、ご健勝を心からお祈り申し上げます。

令和4年8月県北豪雨災害と 特定都市河川の指定

新潟県 土木部 河川管理課

1. 春木山大沢川の概要

春木山大沢川は、山地部から平野部を流下し、村上市坂町市街地で烏川に合流する流域面積 6.7km^2 、流路延長 4.0km の荒川の二次支川である。

昭和42年の羽越水害を契機として河川一定災事業に着手しており、上流区間の約 2km は計画高水流量 $10\text{m}^3/\text{s}$ で整備されているが、これまで抜本的な改修は行われていなかった。

上流の山地部では河床勾配が $1/20\sim 1/80$ 程度と急勾配であるが、平野部に入ると河床勾配が $1/300\sim 1/600$ の緩勾配となっている。

2. 令和4年8月県北豪雨

令和4年8月3日から4日にかけて、日本海からのびる前線が新潟県付近に停滞し、太平洋高気圧の縁をまわる暖かく湿った空気が前線に流れ込んだため、前線の活動が活発となり記録的な大雨となった。

線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続き、新潟地方気象台は「顕著な大雨に関する新潟県気象情報」を計3回発表し、さらに村上市、関川村、胎内市に対し、大雨特別警報(レベル5)を発令した。

降り始めから8月4日12時までの累計雨量は、坂町観測所(村上市)において県内最大の 589mm を観測したのをはじめ、22観測所(気象庁、国土交通省、県管轄の合計)で 250mm を超える豪雨となった。

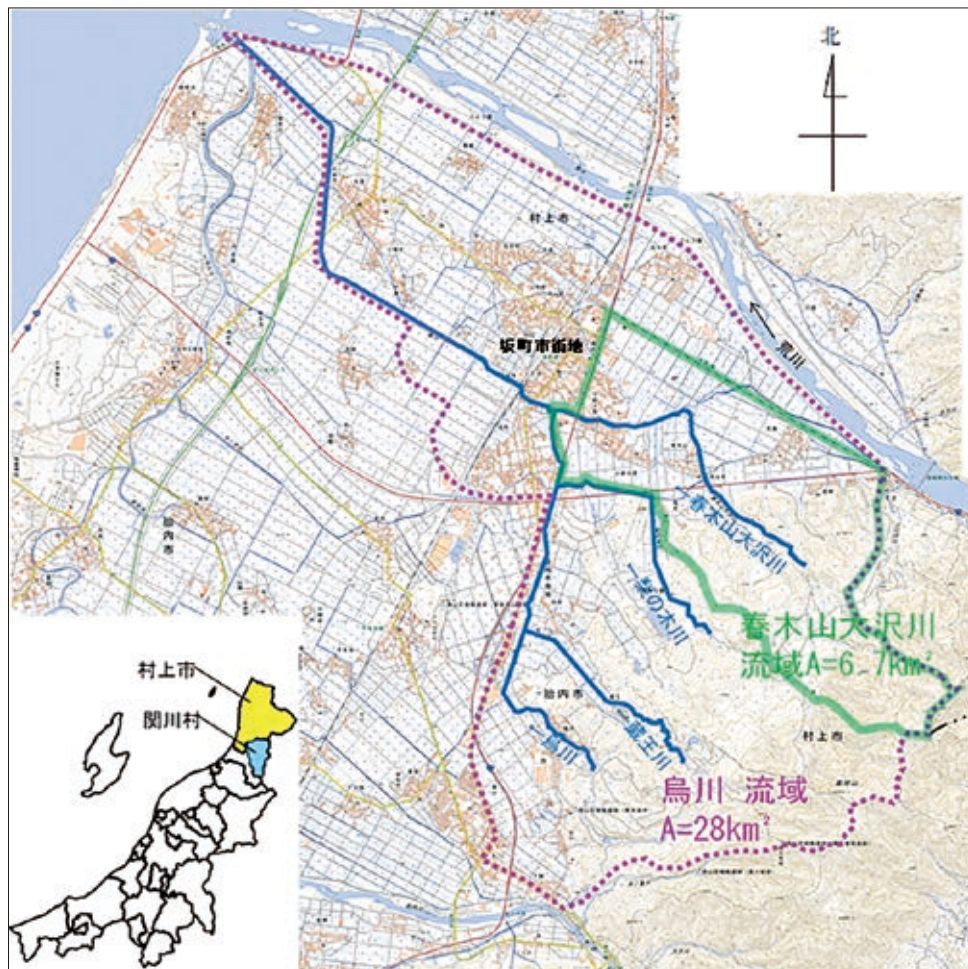


図-1 春木山大沢川流域図

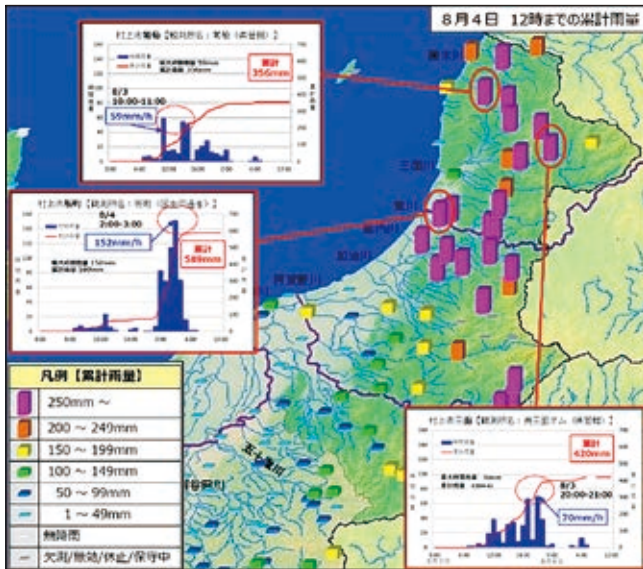


図-2 降雨観測データ

この豪雨による県全体の一般被害は、全壊8棟、半壊23棟、床上浸水889棟、床下浸水1,056棟となり、特に被害が大きかった村上市の坂町駅付近では、市街地全域で、大規模な浸水被害が発生した。

春木山大沢川と烏川との合流地点では、約 $160\text{m}^3/\text{s}$ (1/400相当)の洪水が流下したものと推測され、これにより、公共土木施設では護岸崩壊や河道埋塞などの多数の被害が発生した。



写真-1 浸水状況 (村上市坂町地区)



写真-2 護岸被災状況 (村上市春木山地区)

3. 春木山大沢川治水対策事業

(1) 事業計画

現況流下能力が不足する烏川合流点から上流約3.5km区間では、改修済み区間の計画規模を踏襲し、計画流量 $13\text{m}^3/\text{s}$ 、計画規模1/15で河道拡幅を実施している。

しかし、令和4年8月豪雨は、計画規模1/15をはるかに超える豪雨 (約1/400相当) であり、河道拡幅のみでは十分な効果が得られない。そのため、令和4年8月豪雨と同規模の豪雨により河川が溢水した場合であっても、市街地の浸水被害を軽減するための追加対策として、市街地の上流域に輪中堤 (二線堤) を整備する計画とした。

烏川合流点から上流約1.0km区間は「河川災害復旧等関連緊急事業」、さらに上流約2.5km区間は「河川災害復旧助成事業」として実施している。

●河川災害復旧助成事業 [助成事業]

事業期間	令和4年度～令和8年度
事業延長	2,530m
計画規模	1/15 ($Q=13\text{m}^3/\text{s}$)
事業費	約52億円
事業内容	河道拡幅、橋梁架替7橋 輪中堤 (二線堤)

●河川災害復旧等関連緊急事業 [復緊急事業]

事業期間	令和4年度～令和7年度
事業延長	1,000m
計画規模	1/15 ($Q=13\text{m}^3/\text{s}$)
事業費	約40億円
事業内容	河道拡幅、橋梁架替5橋



図-3 春木山大沢川事業計画平面図



図-4 輪中堤 (二線堤) イメージ図

(2) 進捗状況

河道拡幅工事の進捗を図りながら、橋梁架替工事を並行して実施している。



写真-3 河道拡幅〔助成事業区間〕



写真-4 橋梁架替〔助成事業区間〕



写真-5 河道拡幅・橋梁架替〔復緊事業区間〕

4. 特定都市河川の指定

(1) 指定の背景

流域治水の実効性を高めるため、「特定都市河川浸水被害対策法」が令和3年に改正された。この改正により、これまでの市街化の進展により河川整備で被害防止が困難な河川に加え、自然的条件により被害防止が困難な河川が追加され、新潟県の河川においても指定が可能となった。

令和4年8月の県北豪雨で被害を受けた河川においては、河川管理者が実施するハード整備の加速化に加え、あらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」を推進し、流域の治水安全度を上げる必要があった。この流域治水の実効性を高める取組の一つが「特定都市河川の指定」であり、令和6年2月29日の荒川流域協議会にて、関係市長、村長より特定都市河川指定検討に向けた宣言をいただき、検討を進めてきた。

(2) 指定のメリット

- ・ 特定都市河川指定後に、策定される流域水害対策計画で位置付けられたハード対策の予算が重点化され、整備が加速化する。
- ・ 一定規模 (1,000m²) 以上の雨水浸透阻害行為に対し、対策工事を義務付けることで、降雨時、河川への流出を抑えることが可能となる。



図-5 雨水浸透阻害行為と雨水貯留浸透施設の例

教科書執筆の機会に恵まれて

富山県立大学工学部 環境・社会基盤工学科 伊藤 始

1. はじめに

この度は、寄稿文を執筆する機会を与えて頂きまして、ありがとうございました。今回は、大学教員になったときからの1つの大きな目標でありました、教科書を執筆し、その教科書を用いて学生に講義したことにに関して記述いたしました。この寄稿を通して、北陸コンサルタンツ協会に関係する皆様に教科書を知っていただく機会になり、またコンクリートの面白さをより理解していただく機会になればと思っています。教科書「コンクリート工学」の表紙が写真-1であり、図と写真の一例が図-1と写真-2であります。寄稿では、JISおよび土木学会コンクリート標準示方書の改訂に対応した「第2版 コンクリート工学 (2025年夏発刊予定)」の内容も紹介いたします。



写真-1 コンクリート工学 (初版)

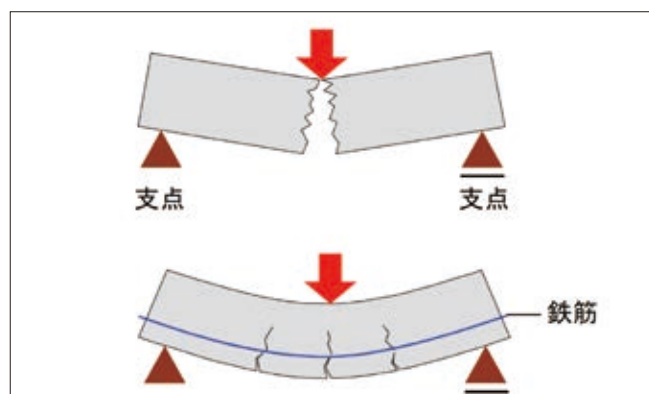


図-1 図の一例 (構造的ひび割れ)

2. 執筆の経緯

今から8年前の2017年に、東京工業大学の岩波光保先生に執筆の仲間に誘っていただきました。岩波先生とは、港湾空港技術研究所で3年間机を並べ、構造実験に汗を流した仲でありました。教科書のコンセプトは、実務経験を持つ大学教員がその経験を活かして執筆することでありました。そのため、私のゼネコンでの経験から製造や施工の部分の執筆を期待されて、声をかけていただきました。そして、材料全般や耐久性の知識と経験が豊富な宇都宮大学(執筆当時、東北大学)の皆川浩先生、セメント化学や混和材料を専門にする前橋工科大学の佐川孝広先生とともに良い仲間が集まり、執筆を開始しました。新しい知見や不明確な点について議論し、修正を繰り返して、2021年秋に初版第1刷の出版に漕ぎつけました。出版から4年が経ち、曖昧な表現を作らず、滑らかな文章にすることなど、質を高めるために熟考を繰り返した日々が苦しいながらも充実した時間であったことを今でも思い返します。



写真-2 写真の一例 (はりの圧縮破壊)

3. 教科書の特徴

教科書は、「コンクリート工学を学ぶ理由は何だろうか。」という岩波先生の印象的な言葉から始まります。暗記科目にならず経験や知見に基づく学問として体系的に理解できることや、メカニズムなどを深く知りたい学生の興味にも応えることを意識して編集しました。教科書は以下の7章で構成されています。

1. 建設材料としてのコンクリート
2. 構成材料
3. フレッシュコンクリートの性質
4. 硬化コンクリートの性質
5. 硬化コンクリートの性能の経時変化に対する抵抗性
6. コンクリートの配合設計
7. コンクリートの製造と施工

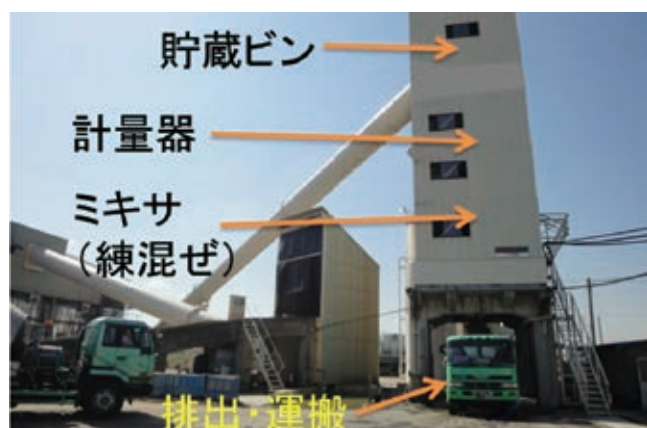


写真-3 生コンクリート工場（富山県射水市）



写真-4 県道の橋脚（富山県高岡市）

私が主に担当した7章の「製造・施工」では、富山県内の生コンクリート工場や建設現場を取材しました。教科書では、写真-3のように生コンクリート工場のプラント設備の位置と材料の流れを説明し、操作室における製造機器の操作、コルゲートサイロなどの貯蔵設備、ミキサの練混ぜ性能などもあわせて説明しています。

建設現場の取材では、写真-4の県道の橋脚において、コンクリート打込みの1日に密着して取材した際の記録を掲載しました。現場職員が行う準備作業や管理作業を時間経過ごとに記録し、圧送を担当するポンプ業者や締固めを担当する作業員の人数や動きも記載しました。

2章の混和材と混合セメントの違いを説明する箇所では、図-2のように北陸地方の地図を挙げて、石川県七尾市の七尾大田石炭火力発電所から産出されるフライアッシュが、混合セメントの場合には新潟県糸魚川市のセメント工場で混合されて出荷され、混和材の場合には富山県射水市の中継サイロから県内の生コンクリート工場に搬入されることを説明しています。このほかにも北陸に関する写真や内容が多く盛り込まれています。同じく2章のセメントの水和反応では、水とセメントが余剰しない水セメント比が42%程度であり、これを下回ると未水和セメントが残り、上回ると毛細管水が残ることを取り上げました。

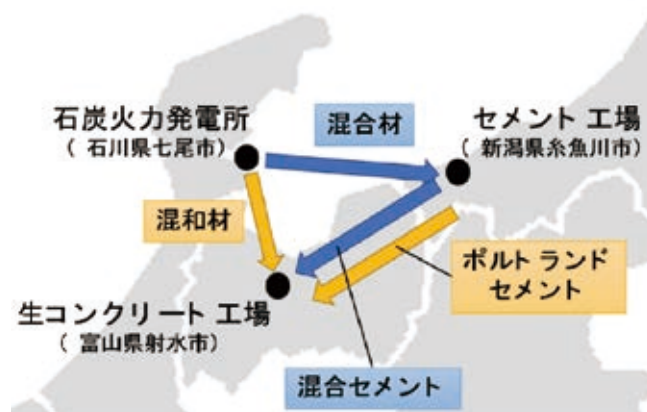


図-2 混和材と混合セメントの違い

3章の「フレッシュコンクリート」では、単位水量と細骨材率をそれぞれ大きく増減させて「良くないコンクリート」を練り上げて、スランプ試験の写真を掲載しました。写真-5(a)は標準的な配合のコンクリートであり、写真-5(b)は水量を少なくした配合のコンクリートであります。単位水量を約10%(13kg/m³)減らすことで、スランプが14.0cmから5.5cmになり、フレッシュ状態も写真のように変化しました。同じく3章のスランプ試験では、コーンを引き抜く速さでスランプが変わるメカニズムを流動と粘性に関連したレオロジーを用いて説明しました。



写真-5(a) 標準的な配合



写真-5(b) 水量を少なくした配合

写真-5 水量が異なるコンクリートの状態

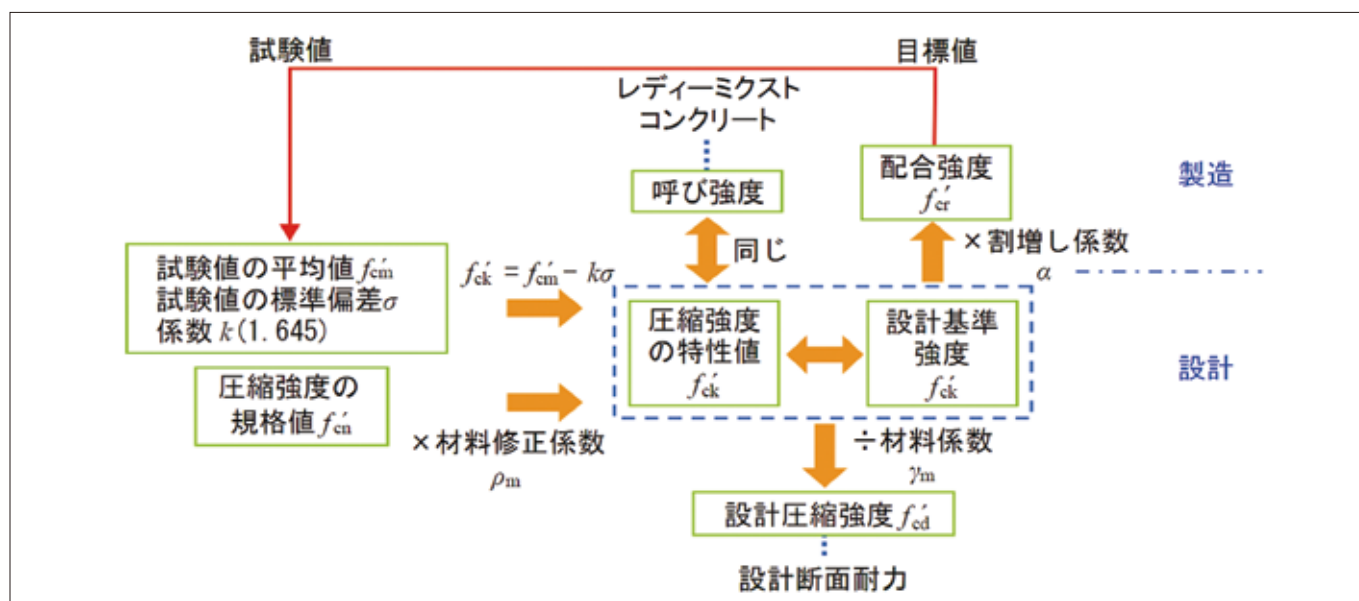


図-3 設計と製造における圧縮強度の位置付け

4. 改訂版（第2版）の発刊に向けて

教科書は、JISの改訂と土木学会コンクリート標準示方書の改訂を踏まえて改訂版（第2版）の発刊に向けて修正作業と確認作業を行っております。

JISの改訂においては、コンクリート用火山ガラス微粉末の説明を追加し、スラッジ水のスラッジ固形分率、配合計画書の様式、材料の累加計量、圧縮強度用供試体の採取時期、荷卸し時の品質検査の頻度、レディーミクストコンクリートの種類などに関する記載を見直しています。この中で圧縮強度供試体の採取が現場試験時に加えて工場出荷時に可能になったこと、レディーミクストコンクリートの種類として目標スランプ10cmのコンクリートが除外されたことを記載しています。

土木学会コンクリート標準示方書の改訂においては、締固めが必要な高流動コンクリート、コンクリート温度が35℃を超える場合の対応、暑中コンクリート用化学混和剤などを新たにに取り上げ、温度ひび割れ指数のグラフや湿潤養生期間の目安の数値などを更新しました。この中でコンクリート温度が35℃を超える可能性がある場合には、スランプの確保や打ち重ねたコンクリートの一体性の確保のために、運搬から養生までの一連の作業に配慮するとともに、流動性保持や凝結遅延の機能を有する化学混和剤を使用すること、ならびにこの場合でもコンクリート温度の上限は38℃までとすることを新たに記載しました。湿潤養生期間の目安では、図-4のように、従来の普通、早強、混合セメントB種に加えて、中庸熱ポルトランドセメントと低熱ポルトランドセメントの目安を追記しました。

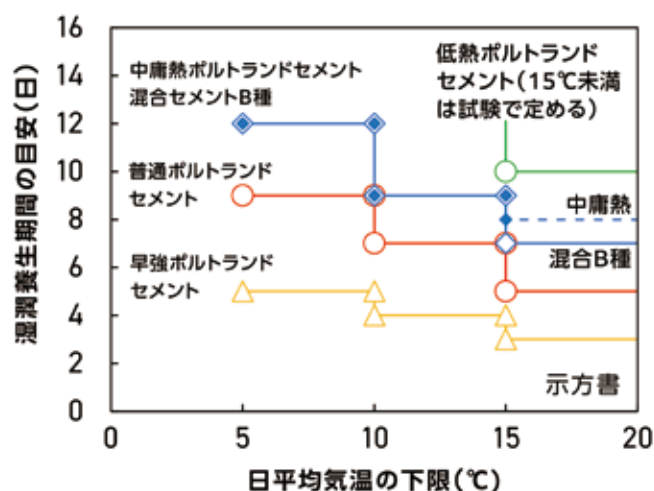


図-4 湿潤養生期間の目安

さらに、昨今の社会情勢を踏まえて、シリカやアルミナを含む材料をアルカリシリカ溶液と混合したジオポリマーや、石灰石焼成粘土セメント（LC3:Limestone Calcined Clay Cement）といったカーボンニュートラルをはじめとした環境負荷低減に向けた取組みについても、新たにコラムを設けて紹介しました。

5. おわりに

私が教科書を講義で使用し始めて3年が経ちました（写真-6）。2021年の発刊以来、全国の多くの大学や高等専門学校でコンクリート工学を学ぶ教科書として採用いただいています。また、2022年には、「若手会員に読ませたい土木の100冊」の1冊として土木学会誌で紹介され、材料工学的分野、構造工学的分野の内容を、基礎から応用までバランス良く学ぶことができると評されました。インターネットの書評欄でも、丁寧な説明で分かりやすいと有難いコメントをいただいています。今後も最新の情報を含めるように改訂を継続していければと思っています。

講義の中では、教科書作成の裏話や図表の真意など話題を膨らませることができ、雑談には事欠きませんでした。また、各節のエッセンスを記した概説を、講義中に音読させることで学生の理解を深められました。学生には、講義を通して線を引いて、メモを余白に記して「教科書を育ててほしい」と伝えています。私の本棚に今でも大学時代に使っていた教科書が置いてあります。学生たちも、自ら育てた教科書を実際の建設の現場に役立ててくれることを期待しています。



写真-6 本学での講義の様子

令和7年度（第43回） 北陸支部定時総会

〈総務部会 総務委員会〉

1. 概要

去る令和7年4月17日（木）新潟グランドホテルにおいて、令和7年度（第43回）北陸支部定時総会が開催されました。総会には、会員企業67社のうち、50社（欠席17社は委任状）・98名が出席し、吉野支部長による総会成立の宣言に続き、「この一年の社会情勢と能登半島地震や奥能登豪雨の複合災害に触れ、度重なる自然災害の中で防災・減災・国土強靱化という概念が広く世間に受け入れられた。復旧復興は緒に就いたばかり。引き続き復旧復興にご尽力いただきたい」との挨拶がありました。



吉野支部長 挨拶

2. 議事概要

1. 支部長挨拶

2. 議事録署名人委嘱

- ・中央開発(株) 北陸支店長 佐藤政則 様
- ・(株)東京建設コンサルタント 北陸支社長 丸山 準 様

3. 議案

- ・第1号 令和6年度 事業報告(案)
- ・第2号 令和6年度 収入支出決算報告(案)
監査報告
- ・第3号 北陸支部細則の改正(案)
- ・第4号 役員の選任

4. 報告事項

- ・第1号 令和7年度 事業計画
- ・第2号 令和7年度 収入支出予算

議事では、令和6年度事業報告(案)、収入支出決算報告(案)および北陸支部細則の改正(案)が原案通り承認されました。

また、任期満了に伴う役員の改選が行われ、吉野支部長が再任、大平 豊、渡辺正三の2氏は副支部長を退任し、後任には小見直樹、中田淳之介の2氏が新副支部長として選任され、北陸支部新役員体制が承認されました。

その後、令和7年度事業計画及び収入支出予算が報告されました。

令和7年度事業計画では、DXの推進を目指し会員の技術力向上のためのWebを利用した講習会等の開催や建設コンサルタント関係技術資料の検討、研究発表会の開催、業務の進歩改善に関する情報等資料の収集、設計調査関連受注実態調査の実施および公表、地域社会への貢献活動、独占禁止法の遵守等、倫理に関する講習会の開催、発注機関に対する要望活動など13項目の事業を行う内容となっております。



定時総会会場

各部会の主な活動は以下のとおりです。

・対外活動部会

発注機関に対する要望と提案の検討および意見交換に関する事項

・総務部会

会員会社の経営・財産等に関する事項
倫理、コンプライアンスに関する事項

・技術部会

会員の技術力向上に関する各分野における調査研究・講習会・講師派遣等に関する事項

・広報部会

広報活動、社会貢献活動、広報誌等に関する事項

・災害対策部会

災害対策活動、支援、訓練等に関する事項
災害対策活動支援の検討、調整に関する事項

その後、新旧役員の挨拶が行われ、再任された吉野支部長は、「世の中が大きな変化の節目に来ている中で、信任させていただいた。皆様の力添えを得て、北陸のコンサルタント協会、ひいては北陸地方全体の発展に努めてまいりたい」と表明されました。

役員改選に伴う新体制は以下のとおりです。

支 部 長	吉野 清文	開発技建(株)
副 支 部 長	小見 直樹(新)	エヌシーイー(株)
副 支 部 長	中田 淳之介(新)	大日本ダイヤコンサルタント(株)
副 支 部 長	新家 久司	(株)国土開発センター
運営委員長	齋藤 真晴(新)	開発技建(株)
運 営 委 員	黒木 康生	(株)日本海コンサルタント
運 営 委 員	笹谷 輝彦	(株)国土開発センター
運 営 委 員	大浜 正人	(株)建設技術研究所
運 営 委 員	岩澤 弘和	(株)構造技研新潟
運 営 委 員	榮 知之(新)	北陸コンサルタント(株)
運 営 委 員	須田 玲(新)	エヌシーイー(株)
支 部 監 事	佐々木 大介	(株)ナルサワコンサルタント
支 部 監 事	高野 一博	大原技術(株)



新役員の挨拶

3. 講演会

定時総会終了後は、山田邦博様(一般財団法人日本建設情報総合センター理事長)を講師としてお招きし、「国土交通行政に関する最近の動向について」と題した講演会を開催いたしました。



講演会の様子

本講演では、公共工事関連予算の状況を説明し、防災の重要性、防災・減災・国土強靱化対策の実施により災害被害の低減が図られていることや、日ごろからの地震の備え、できるだけ安全な防災行動を呼びかける必要性など貴重なお話をいただきました。

講師略歴ならびに講演内容は以下のとおり。

○講師略歴

平成30年 内閣官房国土強靱化推進室次長
令和元年 国土交通省技監
令和3年 国土交通事務次官
令和4年 国土交通省顧問
令和5年～(一財)日本建設情報総合センター理事長



講師 山田邦博 様

○演題

「国土交通行政に関する最近の動向について」

- I 公共工事関係予算
 - 1. 令和7年度予算
- II 激甚化・頻発化する自然災害への対応
 - 1. 能登半島地震について
 - 2. 防災・減災・国土強靱化に資する治水対策の効果事例
 - 3. 気候変動のスピードに対応した新たな水害対策-治水の歴史も踏まえ-
 - 4. 流域総合水管理への転換
 - 5. 防災立国推進閣僚会議について
- III DXへの投資
 - 1. インフラ分野のDXの取組

以上、令和7年度(第43回)北陸支部定時総会の概要を報告いたします。

なお、総会にて承認された各事業計画の実施に際しては、支部会員の皆様よりご支援、ご協力を賜り、円滑に実施してまいります。

令和6年度 支部活動報告

1.支部会員状況

令和6年	3月末日現在の支部会員数	正会員61	準会員2	計63社
令和6年	4月1日現在の支部会員数	正会員63	準会員2	計65社
令和6年	10月1日現在の支部会員数	正会員65	準会員2	計67社
令和7年	3月末日現在の支部会員数	正会員65	準会員2	計67社

2.支部活動

(1) 北陸支部総会

第42回北陸支部定時総会〔新潟市内〕	4月18日
講演会講師：北陸地方整備局企画部長 信太 啓貴 様	

(2) 北陸支部監査および役員会

北陸支部監査〔新潟市内〕	4月 3日
第1回役員会〔web会議〕	4月 4日
第2回役員会〔web会議〕	6月 6日
第3回役員会〔web会議〕	9月 5日
第4回役員会〔web会議〕	10月30日
第5回役員会〔web会議〕	1月16日
第6回役員会〔web会議〕	3月 6日

(3) 部会委員会会議

新潟地域委員会会議〔新潟市内〕	5月13日
広報部会会議〔新潟市内〕	5月23日
倫理・法令委員会会議〔新潟市内〕	5月29日
技術部会委員長会議〔新潟市内〕	5月29日
橋梁委員会会議〔新潟市内〕	6月 4日
総務委員会会議〔新潟市内、web会議〕	6月 6日
災害対策委員会会議〔新潟市内〕	6月12日
会誌編集委員会会議〔新潟市内〕	7月18日
新潟地域委員会会議〔新潟市内〕	8月 7日
会誌編集委員会会議〔新潟市内〕	11月 6日
新潟地域委員会会議〔新潟市内〕	12月12日
総務委員会会議〔新潟市内〕	12月12日
技術部会委員長会議〔新潟市内〕	12月12日
広報部会会議〔新潟市内〕	12月12日
災害対策委員会会議〔新潟市内〕	12月12日
会誌編集委員会会議〔新潟市内〕	3月 5日

令和6年能登半島地震および能登豪雨に対応するため、災害対策北陸現地本部を令和6年1月2日設置。令和7年3月24日解除。

(4) 本部との会議

本部・支部意見交換会〔新潟市内〕	3月17日
------------------	-------

(5) 対外活動

北陸ブロック意見交換会〔新潟市内〕	9月17日
北陸地方整備局との意見交換会〔新潟市内〕	11月 7日
新潟県土木部との意見交換会〔新潟市内〕	10月29日
富山県土木部との意見交換会〔富山市内〕	2月14日
新潟市との意見交換会〔新潟市内〕	11月13日
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第1回幹事会〔新潟市内〕主催 北陸地整	4月23日
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第1回協議会(書面開催) 主催 北陸地整	5月27日
REIM長岡地域社会基盤メンテナンス教育推進協議会・総会 主催 長岡高専	5月27日
建設技術報告会第1回実行委員会 主催 北陸地整	6月10日
第1回新技術活用評価会議 主催 北陸地整	6月19日

第1回北陸ICT戦略推進委員会 主催 北陸地整	7月 9日
第1回北陸地方建設事業推進協議会工事施工対策部会 主催 北陸地整	8月 6日
北陸地方建設副産物対策連絡協議会 主催 北陸地整	8月26日
合同企業セミナー 主催 北陸建設界担い手確保・育成推進協議会	11月22日
第2回新技術活用評価会議 主催 北陸地整	12月17日
けんせつフェア2025 in新潟 第1回幹事会 主催 北陸地整	12月25日
けんせつフェア2025 in新潟 第1回実行委員会 主催 北陸地整	1月27日
担い手確保・育成推進協議会新潟県部会(書面開催) 主催 北陸地整	2月 5日
インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第2回協議会(書面開催) 主催 北陸地整	2月 7日
北陸防災連絡会議第1回幹事会(書面開催) 主催 北陸地整	2月 7日
第2回北陸ICT戦略推進委員会 主催 北陸地整	2月19日
第3回新技術活用評価会議 主催 北陸地整	3月 6日
第2回北陸地方建設事業推進協議会工事施工対策部会 主催 北陸地整	3月13日
第1回北陸地方建設技術報告・広報委員会 主催 北陸地整	3月17日
担い手確保・育成推進協議会(本会) 主催 北陸地整	開催延期
令和5年度 災害対応功労者感謝状贈呈式〔北陸地整〕	6月21日
令和6年度災害復旧及び災害防止事業功労者表彰式〔千代田区砂防会館別館〕	11月11日
富山県能登半島地震復旧対応に係る感謝状贈呈式〔富山市内〕	12月17日

(6) 講習会・イベント・社会貢献活動

支部会員名簿発刊	6月上旬
支部会誌「雪の音」発刊	6月15日・10月15日・2月15日
主催 白山外来植物除去作業in市ノ瀬〔白山市内〕【天候不良のため中止】	中止
主催 建設環境委員会 技術セミナー〔富山市内〕参加：会場9名、ライブ配信27名	8月22日
支部防災演習及び本部防災演習〔新潟市内・富山市内・金沢市内、web利用〕	9月 2日
主催 若手WG 皆でフックアップ！北陸建コン若手エンジニア2024〔新潟市内〕 参加：1日目 35名、2日目 28名	10月9日～10日
主催 道路トンネル見学会〔利賀村内〕【奥能登豪雨災害の対応が見込まれるため中止】	中止
主催 橋梁委員会現場見学会 一般国道253号三和安塚道路(仮称)神田高架橋〔上越市内〕参加24名	11月 6日
主催 都市計画委員会 まちづくりセミナー〔糸魚川市内・長岡市内〕 参加：1日目13名、2日目13名	11月7日～8日
主催 河川砂防委員会 河川見学会(大河津分水路他河川改修工事)〔長岡市・小千谷市〕参加17名	11月 8日
主催 北陸支部 業務・研究発表会〔新潟市内〕参加：会場30名、ライブ配信17名	11月12日
主催 倫理・法令委員会 倫理法令に関する講習会〔新潟市内〕参加：会場35名、ライブ配信65名	11月19日
主催 協会本部 多田副会長講演会〔新潟市内〕参加101名	12月12日
主催 協会本部 多田副会長講演会 録画配信 参加45名	12月17日～1月31日
主催 河川砂防委員会 技術セミナー〔金沢市内〕	未開催
外部主催 富山湾海岸特別清掃 主催 高岡市	7月 7日
外部主催 グ・ヴィンチ祭 主催 富山県立大学	8月 3日
外部主催 けんせつ×テックフェス2024 主催 富山県	9月28日
外部主催 若手エンジニア交流会 主催 長岡国道	10月18日
外部主催 BIM/CIM講習会および若手技術者意見交換会 主催 金沢河川国道	2月25日
共催 第30回社会資本整備セミナー〔富山市内〕主催北陸地域づくり協会	7月23日
共催 第30回社会資本整備セミナー〔金沢市内〕主催北陸地域づくり協会	7月24日
共催 第30回社会資本整備セミナー〔新潟市内〕主催北陸地域づくり協会	7月25日
共催 第30回社会資本整備セミナー〔長野市内〕主催北陸地域づくり協会	7月31日
共催 土研 新技術ショーケース2024 in 新潟 主催 土木研究所	10月31日
共催 独占禁止法等遵守に関する講習会 主催 石川県建設コンサルタント協会〔金沢市内〕 参加：会場38名、ライブ配信49名	11月12日
共催 Made in 新潟 新技術[土木・建築]展示・発表会 主催 新潟県〔新潟市内〕	11月22日
共催 橋梁委員会 橋梁技術講演会 主催 北陸鋼橋技術研究会〔新潟市内〕 参加：会場35名、ライブ配信93名	12月11日

共催	第31回社会資本整備セミナー〔金沢市内〕主催北陸地域づくり協会	1月21日
共催	第31回社会資本整備セミナー〔富山市内〕主催北陸地域づくり協会	1月22日
共催	第31回社会資本整備セミナー〔新潟市内〕主催北陸地域づくり協会	1月23日
共催	第31回社会資本整備セミナー〔長野市内〕主催北陸地域づくり協会	1月28日
共催	Made in 新潟 新技術[土木・建築] web発表会 主催 新潟県〔新潟市内〕	2月25日
本部主催	GIS 講習会 (ArcGIS初級編) web研修 参加7名	9月20日
本部主催	CIM講習会 (ハンズオン) 2024〔新潟市内〕参加：1日目15名・2日目13名	10月1日～ 2日
本部主催	マネジメントセミナー 集合・ライブ配信	10月 3日
本部主催	GIS講習会 (SIS初級編) 集合・web研修	10月8日～ 9日
本部主催	品質セミナー録画配信	10月21日～11月 8日
本部主催	ICTセミナー2024ライブ配信	12月11日
後援	人材育成連携コンソーシアムシンポジウムin新潟 主催 五大学+一高専人材育成連絡コンソーシアム	5月17日
後援	コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム2024 主催 コンクリートメンテナンス協会〔新潟市内〕	7月18日
後援	ほくりく防災・減災考座2024 主催 北陸地方防災エキスパート〔新潟市内〕	8月 8日
後援	北陸インフラメンテナンスフォーラム富山・石川ブロック小会議 主催北陸地整〔富山市内〕	9月27日
後援	第34回 土木フェスティバル 主催 北陸地整他〔国営越後丘陵公園〕	10月 6日
後援	第19回地盤調査法講習会 主催 地盤工学会〔北陸技術事務所〕	10月11日
後援	応用生態工学会富山地域研究会研修会〔富山市内〕	10月22日
後援	再生可能エネルギー地中熱セミナーin新発田市 主催 新潟県地中熱利用促進協議会	10月23日
後援	第39回雪シンポジウムin糸魚川	10月30日～ 31日
後援	斜面判定士に関わる講習会 主催 北陸地方砂防スペシャル・エンジニア連絡会〔新潟市内〕	11月19日
後援	シンポジウム防災・減災に向けた地域づくりを考える 主催 国土政策研究所〔新潟市内〕	12月12日
後援	第44回地域産学官と技術士との合同セミナー 主催 日本技術士会北陸支部	2月20日
後援	北陸インフラメンテナンスフォーラム 主催 北陸地整〔富山市内〕	2月20日

(7) 講師派遣

〔新潟県建設技術センター〕けんせつセミナー2024		
〳	第1回web研修 初任者技術研修(道路概論) 講師2名	5月30日
〳	第4回web研修 道路施設の補修・補強技術(洞門・トンネル・橋梁) 講師3名	6月26日
〳	第9回研修 道路設計 講師7名	9月4日～ 5日
〳	第10回web研修 橋梁I(下部工の設計・施工編) 講師5名	9月18日
〳	第11回web研修 橋梁II(上部工の設計・施工編) 講師1名	9月25日
〳	第15回web研修 コンクリート構造物の維持管理 講師1名	11月 6日
〔北陸地整・ME新潟〕インフラメンテナンス講習会		
〳	道路附属物等の点検概要 講師1名	9月12日
〳	コンクリート橋の維持管理 講師1名	9月26日
〳	橋梁点検・診断の留意点 講師3名	10月 3日
〳	橋梁の補修・補強、点検支援技術 講師3名	10月10日
〳	洞門点検概論、実習 講師1名	10月17日
〳	斜面・盛土・擁壁の点検技術 講師1名	10月24日
〔新潟県〕	道路施設点検の新技術活用促進に関する講習会 講師1名	8月27日
〔新潟県〕	新潟県土木部業務研修フレ研 工事監督者の基礎知識2年目web研修 講師2名	9月19日
〔新潟県〕	新潟県土木部職員研修 橋梁Ⅲ(行政編)web研修 講師1名	9月30日
〔富山県〕	富山県土木部技術職員研修(道路)橋梁点検業務 講師2名	10月 8日
〔北陸地整〕	道路構造物管理実務者トンネル研修【奥能登豪雨災害のため中止】	中止
〔プレストレスト・コンクリート建設業協会〕	わかりやすいPC橋の施工技術研究会 新潟 講師2名	11月13日
〔プレストレスト・コンクリート建設業協会〕	わかりやすいPC橋の施工技術研究会 富山 講師2名	11月27日
〔富山県〕	富山県土木部技術職員研修(土木専門技術・建設行政) 講師1名	2月 7日
〔金沢河川国道〕	BIM/CIM講習会および若手技術者意見交換会 講師2名	2月25日

(8) 学校への広報活動

〔高専・大学〕 各県毎に掲載

新潟大学工学部工学科	7月 2日
新潟大学農学部農学科	6月4日・ 7月25日
新潟大学キャリアセンター	6月20日
長岡技術科学大学環境・建設系 環境社会基盤工学専攻	7月16日
長岡技術科学大学環境社会基盤工学分野(ライブ配信)	10月 2日
長岡工業高等専門学校環境都市工学科	7月 5日
新潟工科大学建築学科 建築・都市環境学系	5月27日
富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科	6月27日
富山県立大学キャリアセンター	6月27日
富山大学都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科	6月27日
金沢大学理工学域 環境デザイン学類	4月23日
金沢大学	6月27日
石川工業高等専門学校環境都市工学科	6月26日
金沢工業大学環境・建築学部環境土木工学科	6月20日
石川県立大学生物資源環境学部環境科学科	6月27日

〔小学校・中学校・高校〕 新潟県内の地域毎に掲載

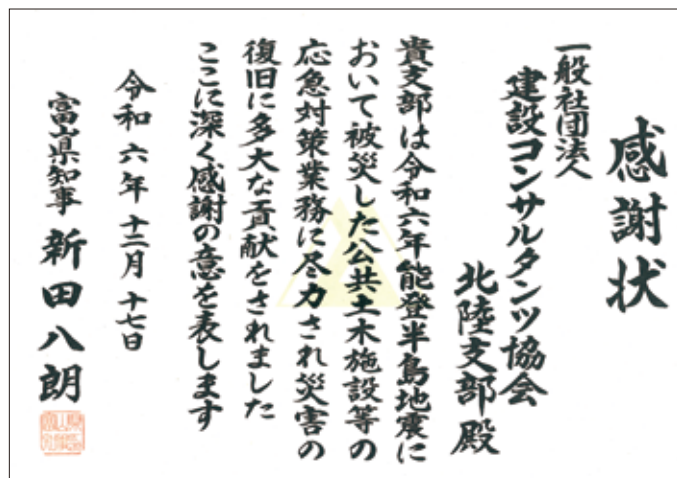
新発田市立東中学校	6月 6日	魚沼市立広神中学校	10月24日
胎内市立乙中学校	6月12日	魚沼市立小出中学校	11月 7日
新発田市立佐々木中学校	6月25日	南魚沼市立六日町中学校	6月 6日
新発田市立川東中学校	11月15日	柏崎市立西山中学校	10月18日
新潟市立木崎中学校	6月12日	妙高市立妙高中学校	6月 6日
新潟県立新潟工業高等学校	11月19日	上越市立清里中学校	6月13日
【出前講座】座学+現場見学		上越市立牧中学校	6月14日
燕市立分水中学校	6月 6日	上越市立吉川中学校	7月 3日
新潟県立新潟県央工業高等学校	10月30日	上越市立板倉中学校	9月13日
長岡市立越路中学校	6月 6日	新潟県立上越総合技術高等学校	9月25日
長岡市立与板中学校	6月17日	上越市立中郷中学校	10月23日
小千谷市立南中学校	6月28日	佐渡市立畑野小学校	7月 3日
長岡市立江陽中学校	7月 5日	佐渡市立河原田小学校	7月 9日
長岡市立東中学校	7月26日	新潟県立佐渡総合高等学校	10月22日
魚沼市立湯之谷中学校	6月26日	佐渡市立真野小学校	11月13日
魚沼市立魚沼北中学校	9月12日		



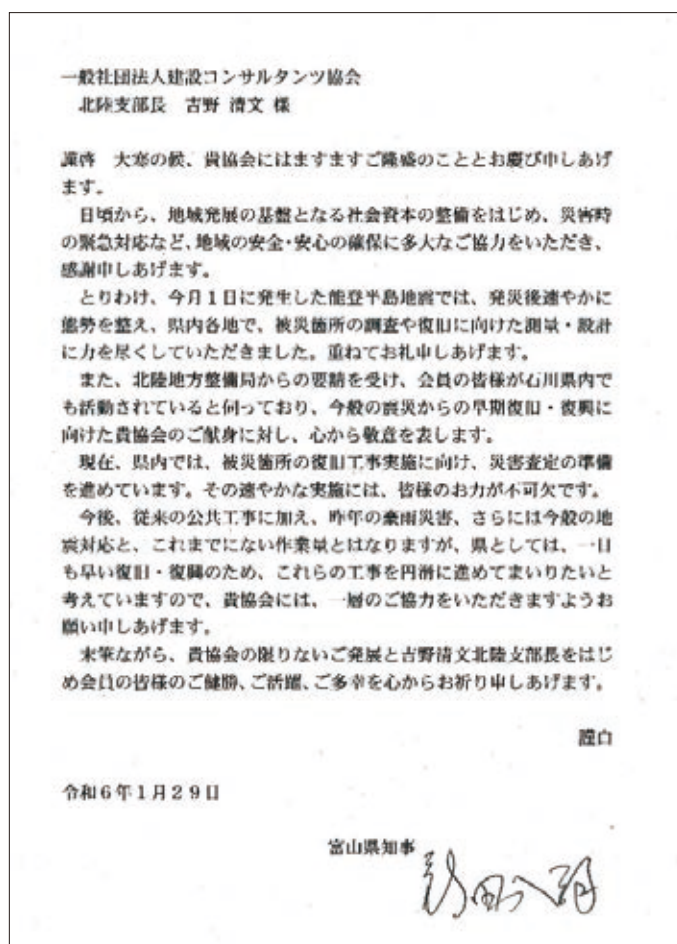
令和6年6月11日 北陸地方整備局



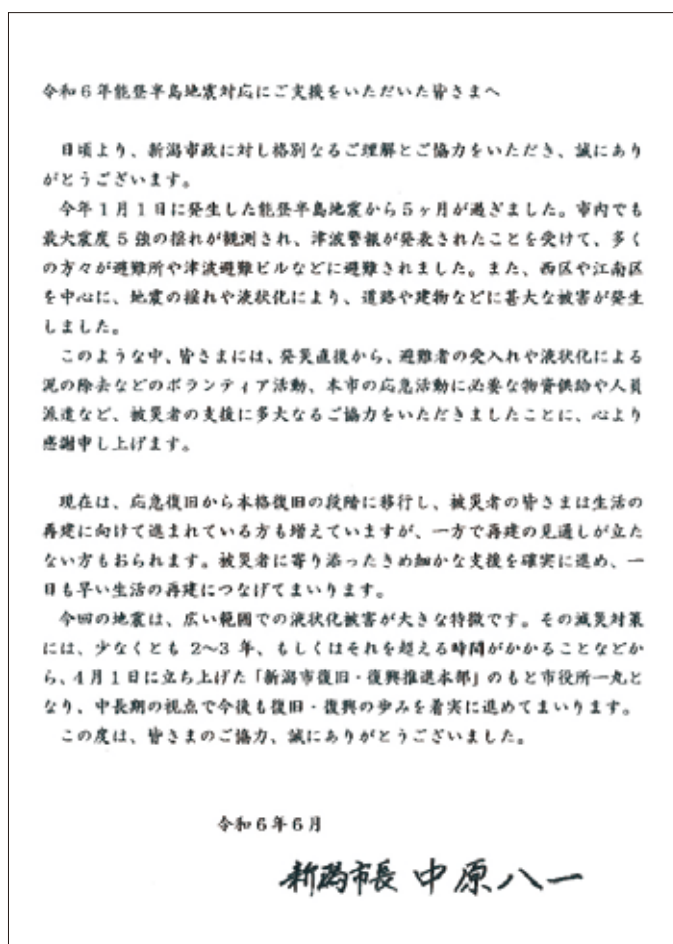
令和6年6月11日 全国防災協会



令和6年12月17日 富山県



令和6年1月29日 富山県（前年度分追記）



令和6年6月 新潟市

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

会 員 名 簿

令和7年6月1日現在

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
朝日航洋(株) 7月1日より社名変更 エアロトヨタ(株)	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計(株)		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測(株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
(株)アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ(株)		920-0362 金沢市古府2-76	076-248-4004 076-248-4174
いであ(株)	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル8F	025-241-0283 025-243-5650
(株)エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
(株)エース	石川営業所	922-0105 加賀市山中温泉泉町159番地	0761-78-1378 0761-78-1378
エヌシーイー(株)		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
応用地質(株)	北信越事務所	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
大原技術(株)		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
(株)オリエンタルコンサルタンツ	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建(株)		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
(株)開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質(株)	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
(株)基礎建設コンサルタント	北陸支店	921-8146 金沢市額乙丸町ニ200番地	076-220-7990 076-220-7991

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
基礎地盤コンサルタンツ(株)	北陸支店	950-0925 新潟市中央区弁天橋通1-2-34 尾山ビル	025-257-1888 025-257-1880
北建コンサル(株)		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
(株)キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
(株)協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
(株)協和コンサルタンツ	新潟営業所	940-0061 長岡市城内町3-8-7 蒼柴ビル801	025-889-8302 025-889-8304
(株)クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
(株)クレアリア	北陸支店	950-0973 新潟市中央区上近江2-9-19 レジデンス近江101	025-288-6893 025-288-6894
(株)建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
(株)建設環境研究所	新潟支店	950-0915 新潟市中央区鑑西1-7-5 エスポワール新潟1F	025-282-7385 025-282-7387
建設技研コンサルタンツ(株)		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
(株)建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 メットライフ新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
(株)構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業(株)	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
(株)国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術(株)	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1 7月1日より新住所 950-2014 新潟市西区小針西2-5-29	025-260-2245 025-260-7522
五大開発(株)		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
(株)三協技術	北陸支店	920-0901 金沢市彦三町1-1-1 金沢彦三111ビル	076-256-5530 076-256-5531

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950
(株)上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
(株)スリーエスコンサルタンツ	北陸支社	926-0867 七尾市桜町12	0767-58-5505 0767-58-5506
相互技術(株)		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本ダイヤコンサルタント(株)	北陸支社	930-0029 富山市本町3-21 損保ジャパン富山ビル	076-415-7800 076-415-7795
舘下コンサルタンツ(株)		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発(株)	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
(株)長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776
(株)ティーネットジャパン	北陸支社	951-8061 新潟市中央区西堀通6番町866 NEXT21ビル	025-226-4330 025-226-3033
(株)東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナインビル8F	025-246-1827 025-246-7463
(株)東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曾根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
(株)東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁212-1	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント(株)		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
(株)ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区網川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
NiX JAPAN(株)		930-0857 富山市奥田新町1-23	076-464-6520 076-464-6671

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)日本インシーク	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740
(株)日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営(株)	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21 4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3 6F	025-247-1341 025-246-1005
(株)パスコ	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 メットライフ新潟テレコムビル5F	025-243-0051 025-241-8654
(株)プラネット・コンサルタント		920-0017 金沢市諸江町下丁372	076-255-0630 076-255-0672
北電技術コンサルタント(株)		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント(株)		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント(株)	北陸事務所	951-8067 新潟市中央区本町通7番町1153 新潟本町通ビル	025-224-1285 025-224-1286
(株)村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
(株)村尾地研		939-8262 富山市塚原150	076-429-2511 076-429-2603
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22 アルメントビル	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニアリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
(一社) 北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
(一財) 新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

役員・委員会名簿

令和7年6月1日現在

北 陸 支 部 役 員			
支部長		吉 野 清 文	開発技建(株)
副支部長		小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
副支部長		中 田 淳之介	大日本ダイヤコンサルタント(株)
副支部長		新 家 久 司	(株)国土開発センター
支部理事	運営委員長	齋 藤 真 晴	開発技建(株)
〃	運営委員	黒 木 康 生	(株)日本海コンサルタント
〃	運営委員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	運営委員	大 浜 正 人	(株)建設技術研究所
〃	運営委員	岩 澤 弘 和	(株)構造技研新潟
〃	運営委員	榮 知 之	北陸コンサルタント(株)
〃	運営委員	須 田 玲	エヌシーイー(株)
事務局長		佐々木 清 一	建設コンサルタンツ協会北陸支部
支部監事		佐々木 大 介	(株)ナルサワコンサルタント
〃		高 野 一 博	大原技術(株)

対 外 活 動 部 会			
	部会長	吉 野 清 文	開発技建(株)
	部会員	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
	部会員	中 田 淳之介	大日本ダイヤコンサルタント(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会幹事	飛 田 潤 一	開発技建(株)
	部会員	田 中 義 明	大日本ダイヤコンサルタント(株)
	部会員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
	部会員	渡 部 長 務	エヌシーイー(株)
	部会員	山 田 幸 男	(株)建設技術研究所
新潟地域委員会	委員長	岩 澤 弘 和	(株)構造技研新潟
〃	委 員	中 田 一 男	開発技建(株)
〃	委 員	坂 西 和 也	エヌシーイー(株)
〃	委 員	外 川 忠 利	(株)キタック
〃	委 員	高 橋 秀 典	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	高 橋 幸 彦	(株)開発技術コンサルタント
富山地域委員会	委員長	水 口 功	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委 員	森 井 昭 二	北陸コンサルタント(株)
〃	委 員	梅 田 正 孝	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	坂 原 徹	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委 員	大 蔵 欣 司	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	久 保 嘉 春	(株)上智
石川地域委員会	委員長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	二 俣 秀	(株)国土開発センター

総務部会			
	部会長	清原 宏二	開発技建(株)
総務委員会	委員長	浜辺 良彦	相互技術(株)
〃	委員	佐藤 雄一	(株)構造技研新潟
〃	委員	熊倉 孝次	(株)クリエイトセンター
〃	委員	今野 健	エヌシーイー(株)
〃	委員	高橋 宏明	開発技建(株)
〃	委員	泉 英樹	大日本ダイヤモンドコンサルタント(株)
〃	委員	河原 健二	(株)日本海コンサルタント
倫理・法令委員会	委員長	新田川 貴之	(株)国土開発センター
〃	委員	飯田 雅之	開発技建(株)
〃	委員	南場 肇	エヌシーイー(株)
〃	委員	清水 英樹	大日本ダイヤモンドコンサルタント(株)
〃	委員	水野 慎介	(株)日本海コンサルタント

技術部会			
	部会長	神田 和久	開発技建(株)
統括技術委員会	委員長	藤巻 智之	開発技建(株)
〃	委員	真嶋 利寿	エヌシーイー(株)
〃	委員	大塚 秀行	(株)キタック
〃	委員	西村 治	大日本ダイヤモンドコンサルタント(株)
〃	委員	池淵 稔	東京コンサルタンツ(株)
〃	委員	武沢 直貴	(株)日本海コンサルタント
〃	委員	加藤 毅	(株)クリエイトセンター
〃	委員	高橋 辰夫	(株)開発技術コンサルタント
河川・砂防委員会	委員長	伊藤 信哉	開発技建(株)
〃	委員	阿左美 敏和	(株)建設技術研究所
〃	委員	西川 幸成	(株)国土開発センター
〃	委員	藤原 大佑	五大開発(株)
〃	委員	越野 謙一	大日本ダイヤモンドコンサルタント(株)
〃	委員	浦田 斉	エヌシーイー(株)
〃	委員	波多野 勝弘	相互技術(株)
〃	委員	中島 康喜	(株)開発技術コンサルタント
道路委員会	委員長	木村 浩	エヌシーイー(株)
〃	委員	須佐 慎	開発技建(株)
〃	委員	吉田 要	(株)クリエイトセンター
〃	委員	相田 守	(株)キタック
〃	委員	木下 裕康	(株)国土開発センター
〃	委員	美作 知弘	大日本ダイヤモンドコンサルタント(株)
〃	委員	藤本 勇一	(株)東洋設計

橋梁委員会	委員長	脇 坂 哲 也	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委 員	吉 村 訓 和	開発技建(株)
〃	委 員	渡 邊 敦	エヌシーイー(株)
〃	委 員	門 口 健 吾	(株)キタック
〃	委 員	佐 藤 良 晴	(株)構造技研新潟
〃	委 員	浦 修 造	(株)国土開発センター
〃	委 員	鷹 西 輝	(株)東洋設計
〃	委 員	寺 田 直 樹	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	塚 嶋 雅 則	東京コンサルタンツ(株)
トンネル委員会	委員長	須 貝 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	今 度 充 之	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	麻 田 正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	松 尾 内 助	(株)キタック
〃	委 員	長谷川 哲 也	サンコーコンサルタント(株)
〃	委 員	辻 本 勝 彦	(株)国土開発センター
都市計画委員会	委員長	岩 渕 和 有	エヌシーイー(株)
〃	委 員	村 田 亨	開発技建(株)
〃	委 員	森 川 大 輔	(株)国土開発センター
〃	委 員	酒 井 信 次	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委 員	眞 島 俊 光	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	白 井 美和子	(株)ナルサワコンサルタント
建設環境委員会	委員長	稲 葉 弘 之	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	若 尾 明 弘	エヌシーイー(株)
〃	委 員	八 鳥 直 哉	開発技建(株)
〃	委 員	三 浦 大 輝	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委 員	上 田 拓 哉	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	辰 橋 浩 二	(株)国土開発センター
〃	委 員	廣 井 敏 樹	大原技術(株)
若手技術者ワーキンググループ	リーダー	小 倉 匡 介	開発技建(株)
〃	委 員	柴 田 悠 平	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	笹 川 康 雄	(株)国土開発センター
〃	委 員	庭 山 雄太郎	大日本ダイヤコンサルタント(株)
〃	委 員	小 口 祐 樹	(株)キタック
〃	委 員	本 間 千 悠	(株)構造技研新潟
〃	委 員	佐久間 佑 多	相互技術(株)
〃	委 員	楡 井 将 真	エヌシーイー(株)
〃	委 員	米 多 宏	北陸コンサルタント(株)

広 報 部 会			
	部会長	齋 藤 浩 幸	(株)キタック
広報委員会	委員長	石 塚 英 洋	エヌシーイー(株)
〃	委 員	飯 田 互	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	加 藤 克 裕	(株)キタック
〃	委 員	高 澤 正 浩	(株)構造技研新潟
〃	委 員	本 間 健太郎	(株)ナルサワコンサルタント
〃	委 員	村 上 啓	開発技建(株)
〃	委 員	本 間 拓 海	(株)建設技術研究所
〃	委 員	泉 田 洋	八千代エンジニアリング(株)
〃	委 員	稲 積 秀 幸	大日本ダイヤモンドコンサルタント(株)
〃	委 員	伊 東 輝 往	北建コンサル(株)
〃	委 員	吉 村 誠 一	(株)国土開発センター
〃	委 員	坂 上 圭 吾	アルスコンサルタンツ(株)
会誌編集委員会	委員長	太 田 博 昭	(株)国土開発センター
〃	委 員	山 田 嘉 貴	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	熊 倉 晃	旭調査設計(株)
〃	委 員	澤 田 伸 也	大日本ダイヤモンドコンサルタント(株)
〃	委 員	古 橋 伸 彦	(株)日本海コンサルタント

災 害 対 策 部 会			
	部会長	吉 野 清 文	開発技建(株)
新潟現地対策本部	本部長	吉 野 清 文	開発技建(株)
〃	副本部長	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
〃	技術総括指揮者	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	副責任者	坪 井 雄一郎	開発技建(株)
富山現地対策本部	本部長	吉 野 清 文	開発技建(株)
〃	副本部長	中 田 淳之介	大日本ダイヤモンドコンサルタント(株)
〃	技術総括指揮者	坂 下 学	大日本ダイヤモンドコンサルタント(株)
〃	副責任者	古 池 豊	大日本ダイヤモンドコンサルタント(株)
石川現地対策本部	本部長	吉 野 清 文	開発技建(株)
〃	副本部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	技術総括指揮者	七郎丸 一 孝	(株)国土開発センター
〃	副責任者	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
災害対策委員会	委員長	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	委 員	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
〃	委 員	飛 田 潤 一	開発技建(株)
〃	委 員	増 山 繁 雄	北陸コンサルタント(株)
〃	委 員	坂 下 学	大日本ダイヤモンドコンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本ダイヤモンドコンサルタント(株)
〃	委 員	七郎丸 一 孝	(株)国土開発センター
〃	委 員	武 沢 直 貴	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント

編集後記

越後平野では、ゴールデンウィークを境に多くの田んぼに水が張られ、田植えも終わり、稲が青みを増す風景が広がっている。新潟の原風景を感じます。仕事柄、県内を回っており、日に日に変化する田んぼの風景を楽しんでいます。

近年、異常気象などの影響により、農家の方々は米作りに大変苦勞されています。昨年夏以降の米の値段の急騰は『令和の米騒動』と言われ、主食として頂いている我々日本人にとって重大な懸案事項となっています。

そもそも『米騒動』とは。1918年（大正7年）に第一次世界大戦の影響で物資が不足し、物価が高騰した社会情勢の中で、特に米の値段が急騰し庶民の生活が困窮した状況下、一定階層が地方の米を買い占め都市へ送る行為が地方の反発を強め、大騒動が occurred。時代背景、状況は異なりますが、似たような状況下にあるのではないのでしょうか。

農作物である米は、人間の思いのまま必要量を調達できないこともあります。冒頭にも述べましたが、異常気象の影響で収穫が思うようにいかない年が続いています。稲作を含め近年の農業は予測が難しい状況です。農業従事者は日々努力し、改良を重ねて収穫量の確保に努めていますが、さすがに天候までは人間には制御できません。

そんな中、農業分野でも効率よく収穫を得る手段としてIT技術の活用が進んでいます。スマート農業、IoT、AI・機械学習などの技術が利用されています。

農業従事者の高齢化や担い手不足もあり、零細農家は廃業を余儀なくされる状況が日本の農業の深刻な課題となっています。我々の業界でも同様な課題が近い将来訪れる可能性がある。

人手不足が蔓延する中、担い手の確保は容易ではありません。そのため、AIやIT技術を使いこなすことで効率を向上させることが必要不可欠な状況です。加速度的に進化を続けており、なかなかついていけない状況ではあります。積極的に最新技術に触れ、体験することがこれからの時代を生き抜くカギとなるでしょう。ただし、節度を持って使うよう注意が必要です。人間が人間として存在し続けるためにも。

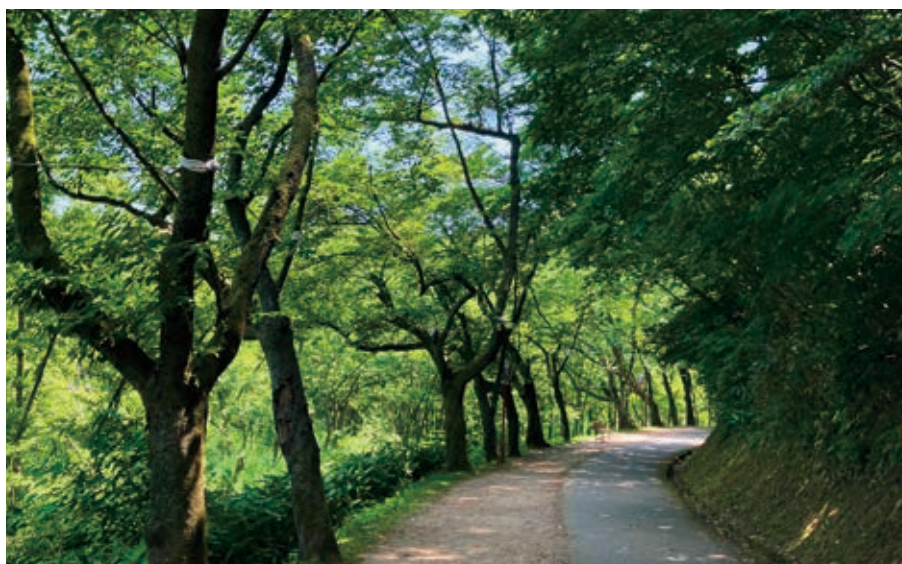
太田博昭

発行／一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長／太田博昭

委員／山田嘉貴 熊倉晃 澤田伸也 古橋伸彦



発 行

一般社団法人 建設コンサルタント協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371
<https://hr-jcca.jp/>